



鳥取県花き振興ビジョン

～たくましい花き生産者の育成と花き産業全体の振興を目指して～



平成 2 6 年 3 月

鳥取県花き振興協議会

鳥 取 県

目 次

1	鳥取県花き振興ビジョンの目的	1
2	平成21年度花き振興ビジョンに基づいて実施された取組 (平成21年度～25年度)	1
3	目標の達成状況	2
4	鳥取県花きの現状分析(平成25年度末現在)	2
5	鳥取県花き振興ビジョンの概要(平成26年度～30年度)	4
6	ビジョンの具体的な振興方策	6
	鳥取県花き振興協議会会員名簿	10
	花き振興ビジョンの年次別取組み予定	11

鳥取県花き振興ビジョン

～たくましい花き生産者の育成と花き産業全体の振興を目指して～

1 鳥取県花き振興ビジョンの目的

花きは生活に潤いと安らぎを与え、冠婚葬祭、贈答用、装飾等様々な用途に利用されている。また、花きは国内の農業算出額の4%を占め、農業の重要な部門を担っているが、切り花の輸入増加、栽培農家の減少等を背景に、平成12年頃をピークに減少傾向にある。市場での相対取引の増加、インターネットの利用などが増えるほか、市場の統廃合や花屋の減少など、花きの流通、販売も変化している。

このように国内の花きを取り巻く環境が著しく変化している中で鳥取県の花き産業全体の振興を図るため、生産から消費に至る短期、中期的な見通しと問題点を明らかにし、平成30年度までの5年間に鳥取県及び鳥取県花き振興協議会が課題解決に向けて取り組むべき事項を定める。

2 平成21年度花き振興ビジョンに基づいて実施された取組（平成21年度～25年度）

（1）バラエティ豊かな花き生産者の育成と花き産業への支援

- ① 新商品の開発や花き産業振興を図るため、ニューアイテム開発部会の商談会や市場展示会への出展などの活動を通じて、先進的農家の育成と市場との交流を推進。公的な支援に頼らない自主的な活動により運営。
- ② 西部圏内の花き産業の振興・文化の向上、消費拡大を図るため、米子花商や東亜青果が中心となって平成24年にエンジョイフラワープロジェクト推進協議会（EFP）が設立され、EFPの社会人を対象とした活動に対して支援。東亜青果や西部総合事務所が中心となって、日野郡も巻き込んだ活動に発展。
- ③ 一方、全体的にJA、市場と生産者とのつながりが希薄となっており、相互の情報共有が十分になされているとは言えない。

（2）産地の育成及び振興

- ① 「花き生産レベルアップ事業」で、東・中・西各地区で研修会を開催し（計10回：平成21～24年度）、生産者のみならず、流通関係者に対する情報提供を行うとともに、ネットワークを形成中。
- ② 「フラワーチャレンジバックアップ事業（平成21～24年度）」及び「花き生産新技術・新品目等導入支援事業（平成25年度～）」により、新技術・新品種を導入する際に必要な施設整備費や種苗費に対して県が支援。特に、平成24年度からはEOD技術などがモデル的に導入されつつある。
- ③ EOD技術は園芸試験場で開発された画期的な技術であり、今後、県協議会が連携しながら普及を図っていく必要がある。

（3）消費拡大対策

- ① 花育活動として、鳥取県花き振興協議会が小学校等での出張授業を継続開催。平成21年度から約1,400人を対象にフラワーアレンジメントの体験の場を提供。
- ② 消費者及び生産者向けの総合イベントとして鳥取県花き振興協議会が花のまつりを継続開催した（入場者数：約1,000人/回）。平成24年度には第20回を迎え、消費者の間では定着しているが、生産者の参加拡大が課題。
- ③ 年間を通じて、県庁ロビーに県内産の花きを飾花するとともに、知事記者会見場にも持ち込むなど、マスメディアを通じてPRに努めているが、県内産花きの認知度は高いと言えず、植樹祭、グリーンウェーブなどあらゆる機会を通じたPRを進めていくことが重要。

3 目標の達成状況

(1) ビジョン目標

- ① 県外市場での競争に打ち勝つ市場競争力の強い産地づくり

○数値目標:主要花き販売高の増 (単位:百万円)

項目	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H24達成率*	H25目標
ストック	223	212	182	179	172	208	87%	240
シンテッポウユリ	39	38	41	49	47	50	111%	45
花壇苗	126	113	105	100	92	74	49%	150
計	388	364	329	329	311	333	77%	435

全農とっとり取扱数値 *H24 達成率=H24 年度数値/H25 年度目標数値

- ② 県内流通の効率化によるバラエティ豊かな花き生産者の育成と県内花き産業の活性化

○数値目標:県内花き市場における県内産比率の増

項目	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H24達成率*	H25目標
県産比率	20	19	17	16	15	13	52%	25

主な品目:きく、トルコギキョウ、ばら、切り枝

*H24 達成率=H24 年度数値/H25 年度目標数値

(2) 目標達成状況に対する評価

- ① シンテッポウユリは抑制栽培の面積増と技術向上により出荷量が増えており、平成22年度時点で目標を達成。
- ② ストックは、全体的に減少傾向にあったが、平成24年度は販売額が増加。
- ③ 花壇苗については系統出荷における販売額は大きく減少しているが、系統外の個人出荷の割合が増えていると考えられる。
- ④ 県内花き市場における県内産比率は年々下がる傾向にあり、生産者の減や地元消費のニーズへの対応が難しくなっている。

次のビジョンでは、振興策の効果が反映できる目標数値の見直しが必要。

(3) 目標達成状況以外の評価

- ① キッズフラワー体験教室は5年間で1400人の小学生が体験し、好評。平成24年度から社会人向けフラワーアレンジメント体験教室が開始され、取組が広がりつつある。
- ② 地元市場と生産者の連携が図られつつあり、生産者の評価が高まっている。

4 鳥取県花きの現状分析(平成25年度末現在)

主要な品目 ストック、シンテッポウユリ、キク、リンドウ、花壇苗、鉢物 ほか

区分	現状	課題・問題点
生産	県内花きの生産額は、平成11年の17億円をピークとして年々減少し、農業生産額は平成22年で約11億円(芝を除く)。	生産者の高齢化、複合経営作物の低迷や販売単価の下落。
	花き産地育成には、系統組織だけでなく、県内市場も積極的に関わっている。	品目が多く組織(産地)育成が難しい。

区分	現状	課題・問題点
経営	花壇苗、鉢物は少数精鋭の専門農家。他の品目は、規模の大小に関わらず複合経営が多い。	経営形態が異なるため、それぞれに合わせた支援が必要。
	加温に依らない栽培が主流となっており、低コスト化が図られているが、季咲が多く単価面でのメリットが少ない。	EOD技術など低コスト加温技術の確立によって、加温栽培も可能になる。
	すいかなど施設栽培では、冬場の労力確保が可能な場合は、ストックやユリの栽培が普及している。また、安価な苗が入手できるならユリを拡大したいという声がある。	ユリは安価な苗の供給を求める要望があるが、全農のバイテクセンターに代わる苗の安定供給体制がないため、生産拡大が進まない。
	リンドウは優良系統の選抜が進みつつある。	母本の維持管理及び苗の安定供給体制が整備されていないため、優良系統の普及が困難。
	花壇苗などには新規参入者も見られる。	参入には強い意志と資金力、さらには仲間づくりが必要であり、定着に向けては課題も多い。
流通・販売	農業算出額に占めるJA系統出荷（県外出荷）は3割程度と考えられ、ストック、ユリ、リンドウが主体。残りの7割は個人出荷（県内外出荷）で、花壇苗、鉢物、その他花きは、系統外出荷が多い。県西部では花壇苗をJA系統出荷によりとっとり花回廊へ出荷。	流通、販売の実態が把握しづらく、対策等に反映させにくい。新規参入者や個人出荷者に対する技術的な支援体制が必要。系統組織も高齢化等により部会が弱体化している。
	流通形態は、市場における相対取引、市場外流通、量販店販売、農産物直売所、インターネット販売など多様化。	主要品目は市場出荷が主流であり、輸送コストの低減、ロット確保の点で、共同出荷のメリットを生かす必要がある。
	地元市場への出荷量は減少。農産物直売所の販売額が年々伸びており、花きは上位品目となっている。	小規模農家による日用の花き生産ではなく、生産量の比較的大きく、品質を求められる花き生産の振興が必要。そのためには地元市場等と連携が必要。
	県下で統一した販売体制がとられていない。	県内産地が同一市場内で競合するような状況がある。
指導体制	JA及び花担当普及員の活動が広域化しており指導者が少ない上、生産者組織が年々減少している。	野菜などに比べると指導体制が弱く、共同出荷体制もとりにくい。
	平成19年度から園芸試験場でEOD技術による開花調節、作型開発が確立されつつあり、全国的にも注目されている。現在、トルコギキョウやストック、花壇苗等で技術確立が図られている。	EOD技術をどのように経営にとり入れ、所得向上につなげていくか、具体的な指針が必要。

5 鳥取県花き振興ビジョンの概要（平成26年度～30年度）

経営の大小に関わらず、生産者の創意工夫に基づいて花き（新技術、新品種）を効果的に導入し、所得向上が図れるたくましい花き生産者・組織の育成と県内市場や小売店との連携を深化させ、花き産業全体の振興を図る。

（1）取組項目

- ① 生産者の組織化や指導・生産販売体制の共同化による生産拡大と後継者、新規参入者の育成
- ② 試験研究成果を活用した施設の高度利用による生産の推進
- ③ 地域・担い手の特徴を活かした花き複合経営の推進
- ④ 優良種苗の生産性向上と種苗供給体制の整備による生産拡大
- ⑤ 産地と地元市場の連携による県産花きの販路確保と品質向上
- ⑥ 将来の花き消費を拡大するための花育の推進

（2）花き振興ビジョン目標（平成26年度～30年度）

- ① 主要花きの販売額を増加する。（JA系統出荷販売額で評価）

（単位：百万円）

品目名	現況値 (平成24年度)	目標値 (平成30年度)	増加割合 (%)
ストック (スプレーストック含む)	208	240	115
シンテッポウユリ (季咲き・抑制合計)	50	70	140
リンドウ	14	17	121
合計	273	327	120

- ② 新技術の導入を支援し、普及させる。（単県事業の活用実績で評価）

内容	実績 (平成21～25年度)	目標 (平成30年度)
技術内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 露地シンテッポウユリの定植後の不織布被覆 ・ EOD反応を活用したトルコギキョウの品質向上 ・ EOD反応を活用した花壇苗の品質向上 ・ 細霧冷房を活用した抑制シンテッポウユリの苗の品質向上 ・ 細霧冷房による高温対策及びEOD反応を活用した花壇苗の品質向上 	新技術導入件数 (EOD、夏場高温対策技術等)
計	5件/5年	5件/年

(3) 主要品目の課題と推進方針

品 目	強み・特長	弱み・課題	推進すべき方向
ストック	<ul style="list-style-type: none"> 栽培技術が確立し、比較的粗放的栽培が可能 スイカの後作等ハウス施設を有効活用できる 	<ul style="list-style-type: none"> 価格は安定しているものの、面積当たりの収益は低い 出荷時期が天候に左右されやすく、寒さで出荷遅延すると凍害で出荷率低下 	<ul style="list-style-type: none"> 施設栽培の複合経営により、周年の労力活用を図る品目として位置づけ 低コストハウスの検討・推進にあわせ、品目導入を推進 育苗ハウスの後作として、大規模稲作農家や集落営農で導入を推進
シンテッポウユリ	<p><露地栽培></p> <ul style="list-style-type: none"> 需要が多く、面積当たりの収益が高い 初期の施設投資が少ない 水田転換畑の有効利用 	<ul style="list-style-type: none"> 出荷時期が短期間に集中し労力が必要となるため、大面積栽培は困難(2～3aが目安) 苗の安定生産が難しく、育苗期間も長い 	<ul style="list-style-type: none"> 夏場に労力のある生産者、新規生産者へ推進 水田転換畑、中山間地に導入を推進 安価な種苗の供給体制の整備を検討 長期出荷技術の確立
	<p><抑制ハウス></p> <ul style="list-style-type: none"> 野菜ハウス施設の有効活用ができる 全国的に産地がなく面積当たりの収益が高い 	<ul style="list-style-type: none"> 規模拡大には自家育苗では限界があり、購入種苗による生産の補完が必要 適期に定植しないと出荷できない 面積拡大には栽培技術の普及が不可欠 	<ul style="list-style-type: none"> ハウス栽培の後作で施設の有効活用できる生産者に推進 低コストハウスの検討・推進にあわせ、品目導入を推進 安価な種苗の供給体制の整備を検討
リンドウ	<ul style="list-style-type: none"> 智頭に産地があり一定の評価 中山間地域の水田転作として定着 	<ul style="list-style-type: none"> 優良種苗の供給体制がない 夏場高温で種子確保が困難 株更新が進んでおらず、低収量 産地が縮小傾向 	<ul style="list-style-type: none"> 安価な種苗の供給体制の整備を検討 夏冷涼な中山間地域への推進 株更新による収益性向上
花壇苗・鉢物	<ul style="list-style-type: none"> 多品目栽培により周年栽培が可能 個人出荷の企業的経営者が多い 後継者を含め若手生産者が多い 	<ul style="list-style-type: none"> 個人経営で産地を形成していない 新規参入には強い意志と資金力と仲間が必要 販路拡大機会の不足 	<ul style="list-style-type: none"> 新規参入者等の栽培技術向上支援 生産者の組織化の推進 市場との情報交換、販路開拓の機会創出

6 ビジョンの具体的な振興方策

(1) 生産者の組織化や指導・生産販売体制の共同化による生産拡大と後継者、新規参入者の育成

対象品目：ストック、シンテッポウユリ、リンドウ、花壇苗等

取組方針：既存の生産者を含めてJA出荷による共計共販体制の整備と生産部会等で生産者の参画を促進し、生産者の栽培技術向上により花き産地の振興を図る。

取組内容：①JAの座談会等における栽培の推進（JA） ②生産者を対象とした定期的な指導会の開催（JA、普及所） ③販売対策会議の開催（全農）
④花壇苗など個人経営者を対象とした商談会、研修会の開催（花き振興協議会）
⑤実証展示ほ、試験ほの設置等（普及所）

<主な意見>

- ・部会員はベテランの域にあり、新規就農者を育てられる。（生産者）
- ・生産者が集まる機会を作ってほしい。特に若い生産者と出会う機会を作りたい。（生産者）
- ・県として全農がとりまとめして県外に有利販売できないか。中・西部で一緒に出荷調整できないか。（生産者）
- ・若い生産者には栽培面、経営面で普及員のフォローが必要。（生産者）
- ・若い人が新規に農業に取り組むには基盤が必要。組織に入って将来独立というパターンで育てることも必要では。（花商）
- ・新規の人がどこでどう売るのがビジョンに欲しい。新規の人や中山間の花の出荷先は花市場に頼らざるを得ない。（JA）

(2) 試験研究成果を活用した施設の高度利用による生産の推進

対象品目：ストック、シンテッポウユリ、トルコギキョウ等

取組方針：JA、普及所等が連携し試験研究成果の現地への普及を図る。

取組内容：①EOD光照射・加温技術、夏場高温対策等の新技術の研修会開催（園芸試験場）
②現地視察（花き振興協議会） ③単県事業「花き生産新技術・新品目等導入支援事業」を活用した新技術・新品目導入の推進（生産振興課） ④低コストハウスの検討、品目・技術と一体的な施設導入推進（生産振興課、とっとり農業戦略課、普及所）

(3) 地域・担い手の特徴を活かした花き複合経営の推進

対象品目：ストック、シンテッポウユリ（露地）、リンドウ、枝物（ツルウメモドキ、ノイバラ、ヒサカキ）等

取組方針：中山間地や平坦地、集落営農組織、後継者、女性、高齢者等様々な地域・担い手の特徴を活かした花の複合経営を推進する。

取組内容：①普及員、営農指導員を対象とした栽培研修会、栽培基準の作成会議の開催（JA、全農） ②事例収集と複合経営モデルの提案（とっとり農業戦略課、普及所）
③中山間未利用地（梨園跡地等）での新たな品目の導入推進（JA、普及所、生産振興課、花き市場） ④「花き生産新技術・新品目等導入支援事業」「魅力ある中山間特産物等育成支援事業」等単県事業の推進（生産振興課、普及所）

<主な意見>

- ・ストック、ユリは野菜との複合経営が主。その他の品目も同様。野菜普及員と花普及員の1農家に対する情報共有・連携が必要。（生産者）
- ・平坦地と中山間地の経営は違う。地域に合う品目の推進を。（生産者）

- ・経営のタイプごとに振り分けし、同じ方向性の人を集めた研修会など、それぞれに合わせた支援体制が必要では。(市場)

(参考) 品目別経営試算 (平成25年度経営指導の手引きをもとに試算)

品目	作型	面積 (a)	販売額 (千円)	経営費 (千円)	所得 (千円)	労働時間 (時間)	組合せ品目
ストック	ハウス	6	1,080	717	363	198	すいか
シンテッポウユリ	露地	3	706	356	350	137	白ねぎ
リンドウ	露地	10	972	713	259	300	水稻
花壇苗 (パンジー)	ハウス	10	3,153	2,612	540	1,047	ペチュニア、ハボタン 等

(参考) 経営モデルの事例 (平成25年度経営指導の手引きをもとに試算)

類型	自家 労働	品目 (面積：a)	組合せ品目 (面積：a)	経営全体			
				販売額 (千円)	経営費 (千円)	所得 (千円)	労働時間 (時間)
施設栽培	2.5 人	ストック (24)	すいか(90) ブロッコリー(50) ほうれんそう(6) 水稻(50)	14,908	10,614	4,293	3,552
露地栽培	2.5 人	シンテッポウユリ (5)	ブロッコリー(30) 白ねぎ(20) 水稻(30)	4,541	2,993	1,548	3,552
露地栽培	2人	リンドウ (70)	水稻(50)	7,708	4,863	2,845	2,259
施設栽培	2.5 人	パンジー(30)	ハボタン(5) ペチュニア(12) マリゴ(9) サルビア(6)	18,822	15,075	3,746	5,849

(4) 優良種苗の生産性向上と種苗供給体制の整備による生産拡大

対象品目：シンテッポウユリ、リンドウ

取組方針：安価な苗の供給体制の整備の検討、自家育苗の安定生産

取組内容：①自家育苗、購入苗の事例調査(生産振興課、普及所) ②育苗研修会の開催(JA、普及所) ③苗供給体制を整備した先進地視察(JA、全農、普及員、生産振興課) ④種苗供給体制の整備に関する検討(生産振興課、とっとり農業戦略課)

<主な意見>

- ・抑制ユリで苗の半額助成等があれば、面積はもっとふえる。(生産者)
- ・シンテッポウユリの苗代は1本30円くらい。10円くらいにならないか。(生産者)
- ・産地育成に速効的で有効なのは、優良種苗供給体制の確立。岡山県はリンドウに種苗の助成をして今は智頭を抜く産地に成長。島根県でも種苗供給体制がある。(園芸試験場)

(参考) 自家育苗した場合のシンテツポユリ苗代の試算例

前提：10a 当たり育苗床（ハウス）70 m²、セルトレイ 350 枚、7 万粒播種、定植数 4 万本（成苗率 57%）、減価償却費、輸送費は含まない。

費 目	金額(円)	備 考
種子代	261,345	2,000 粒×350 枚
育苗用土	63,420	
資材費	126,948	育苗箱@200 円、セルトレイ@156 円、 ポリフィルム、支柱等
（うち育苗箱、セルトレイ）	124,600	
肥料・農薬費	935	
労働報酬	99,375	132.5 時間×時給 750 円で計算
合計 （育苗箱・セルトレイ含む）	552,023	苗 1 本当たり 13.8 円
合計 （育苗箱・セルトレイ含まず）	427,423	〃 10.7 円

(5) 産地と地元市場の連携による県産花きの販路確保と品質向上

対象品目：花き全般

取組方針：生産から販売まで情報の共有を図り、花き産業の発展を図る。

取組内容：①花き市場情報の提供（花き市場） ②現地見学会の開催（J A、普及所、生産振興課、花き市場、とっとり農業戦略課） ③産地と市場関係者・小売店との意見交換会（花き市場）

<主な意見>

- ・生産者巡回で市場や小売店と情報共有できてよかった。（生産者）
- ・最近、県内市場と地元生産者間で情報の行き来が多くなり、求められる花の生産・出荷につながるようになった。（生産者）
- ・高齢化しているが、いいものをリレー出荷している少量多品目の産地がある。近隣の有識者に生産者が相談できる体制が整っており、こういう産地をたくさん作ると良いが。（花商、花市場）
- ・「花屋のニーズに対応できるような生産者を増やす」ということをビジョンの目標にできないか。有望な品目を調査することも必要。店頭にいる店員の意見を情報収集するシステムが必要。（花商）

(6) 将来の花き消費を拡大するための花育の推進（県産花きの活用）

対象品目：花き全般

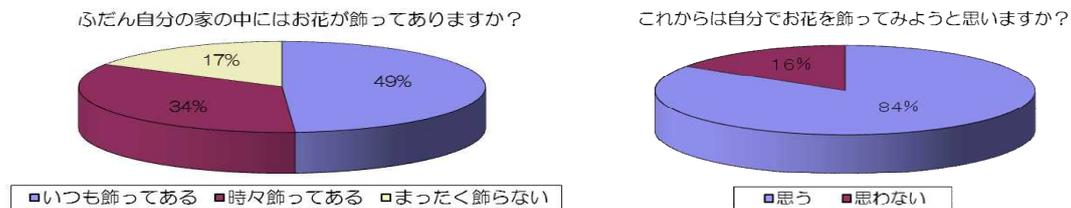
取組方針：小学生と社会人を対象に花に慣れ親しんだり、職場等での花の活用等消費拡大につながる活動を行い、県の花き産業全体の振興を図る。

取組内容：①キッズフラワー体験教室（年10回程度）（花き振興協議会） ②社会人向けフラワーアレンジメント体験教室（花き振興協議会（花商組合、E F P））
③花のまつり開催（花き振興協議会）

<主な意見>

- ・島根は新品種の消費拡大等、PRが上手である。（花市場）
- ・流通サイドで消費を伸ばすようがんばっているが、限界がある。国や行政でからの消費拡大の支援が必要。（花市場）

(参考) キッズフラワー体験教室アンケート結果(H24)



<参加した小学生の感想>

- すごくむずかしいと思っていたけど、いろいろ教えてもらって時間はかかったけど楽しくできました。お母さんに見せたら「すごくきれいだね」と言っていました。よかったと思います。
- はじめは、私に出来ないかなあと考えていたけれど教え方が上手だったし見本をはじめに作ってくれていたのでもとてもわかりやすかったです。
- ぼくは、フラワーアレンジメントをしてうまく出来てうれしかった。みんな、はじめたときは同じ事をしてたけど、できあがった時には、みんなちがうものができていたので不思議だなあと思いました。

鳥取県花き振興協議会会員名簿

(平成26年4月1日時点)

役員

会長	国本 厚	鳥取県洋蘭振興会
副会長	小松 康人	米子花商協同組合
〃	安藤 充勉	倉吉花き市場株式会社

会費会員

- ・鳥取花市場生産者協議会
- ・米子地区花卉生産者協議会
- ・鳥取生花商園芸組合
- ・倉吉花商組合
- ・米子花商協同組合
- ・株式会社鳥取花市場
- ・倉吉花き市場株式会社
- ・東亜青果株式会社
- ・鳥取県洋蘭振興会
- ・全国農業協同組合連合会鳥取県本部
- ・鳥取いなば農業協同組合
- ・鳥取中央農業協同組合
- ・鳥取西部農業協同組合
- ・一般財団法人鳥取県観光事業団とっとり花回廊

賛助会員

- ・鳥取大学
- ・鳥取県総務部関西本部
- ・鳥取県農林水産部農業振興戦略監とっとり農業戦略課
- ・鳥取県農林水産部園芸試験場
- ・鳥取県農林水産部農業振興戦略監生産振興課

事務局 鳥取県農林水産部農業振興戦略監生産振興課

花き振興ビジョンの年次別取組予定

取組項目	対象品目	取組内容	主として担当する機関	H26	H27	H28	H29	H30	チェック項目
① 生産者の組織化や指導・生産販売体制の共同化による生産拡大と後継者、新規参入者の育成	ストック、シンテッポウユリ、リンドウ、花壇苗等	①JAの座談会等における栽培の推進	JA	○	○	○	○	○	開催回数、生産者数の把握、販売面積、販売額
		②生産者を対象とした定期的な指導会の開催	JA、普及所	○	○	○	○	○	
		③販売対策会議の開催	全農	○	○	○	○	○	
		④花壇苗など個人経営者を対象とした商談会、研修会の開催	花き振興協議会	○	○	○	○	○	
		⑤実証展示ほ、試験ほの設置等	普及所	随時	随時	随時	随時	随時	実施数
② 試験研究成果を活用した施設の高度利用による生産の推進	ストック、シンテッポウユリ、トルコギキョウ等	①EOD光照射・加温技術、夏場高温対策等の新技術の研修会開催	園芸試験場	○	○				技術導入面積等
		②現地視察	花き振興協議会	○	○	○			実施回数
		③単県事業「花き生産新技術・新品目等導入支援事業」を活用した新技術・新品目導入事業の推進	生産振興課	○	○	新規予算対応 			
		④低コストハウスの検討、品目・技術と一体的な施設導入推進	生産振興課、とっとり農業戦略課、普及所	○	○	○	○	○	
③ 地域・担い手の特徴を活かした花き複合経営の推進	ストック、シンテッポウユリ(露地)、リンドウ、枝物(ツルウメドキ、ノイバラ、ヒサカキ)等	①普及員、営農指導員を対象とした栽培研修会、栽培基準の作成会議の開催	全農、JA、普及所、とっとり農業戦略課	○	○	○	○	○	実施回数
		②事例収集と複合経営モデルの提案	とっとり農業戦略課、普及所	事例収集	経営モデル提案				提案の有無
		③中山間未利用地(梨園跡地等)での新たな品目の導入推進	JA、普及所、生産振興課、花き市場	○	○	○	○	○	新規品目導入数
		④「花き生産新技術・新品目等導入支援事業」「魅力ある中山間特産物等育成支援事業」等単県事業の推進	生産振興課、普及所	○	○	新規予算対応 			
④ 優良種苗の生産性向上と種苗供給体制の整備による生産拡大	シンテッポウユリ、リンドウ	①自家育苗、購入苗の事例調査	生産振興課、普及所	○	○	○	○	○	事例調査
		②育苗研修会の開催	JA、普及所	○	○				実施回数、参加者等
		③苗供給体制を整備した先進地視察	JA、全農、普及所、生産振興課	○	○				実施有無
		④種苗供給体制の整備に関する予算化の検討	生産振興課、とっとり農業戦略課			○	○	○	
⑤ 産地と地元市場の連携による県産花きの販路確保と品質向上	花き全般	①花き市場情報の提供	各花き市場	○	○	○	○	○	情報提供回数
		②現地見学会の開催	JA、普及所、生産振興課、花き市場、とっとり農業戦略課	○	○	○	○	○	実施回数
		③産地と市場関係者・小売店との意見交換会	各花き市場	○	○	○	○	○	実施回数
⑥ 将来の花き消費を拡大するための花育の推進	花き全般	①キッズフラワー体験教室(年10回程度)	花き振興協議会	○	○	○	○	○	実施回数、参加者
		②社会人向けフラワーアレンジメント体験教室	花き振興協議会(花商組合、EFP)	○	○	○	○	○	
		③花のまつり開催	花き振興協議会	○	○	○	○	○	